

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K01910

研究課題名(和文) 保育者の言語的コミュニケーションスキルを高める保育者研修プログラムの実証的開発

研究課題名(英文) Empirical development of a training program for ECEC providers to enhance their verbal communication skills.

研究代表者

白川 佳子 (Shirakawa, Yoshiko)

国立女子大学・家政学部・教授

研究者番号：20259716

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：保育現場において実際の保育場面の観察と仮想場面における保育者の子どもへの関わり調査を実施した。また、研修あり群にはコミュニケーション・スキルに関する保育者研修を実施した。その結果、実際の保育場面の観察では、研修あり群において、保育者研修の事後調査で保育の質の評価得点が上昇した。このことから、コミュニケーション・スキルに関する保育者研修の効果が示唆された。仮想場面のかかわり課題では、保育経験年数が長くなると、かかわりの種類が多くなる傾向が見られた。このことから、経験年数が長くなると子どもへのかかわり方のバリエーションが増えることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの言語やコミュニケーションを支えて広げることは、保育者の役割の中で非常に重要なものである。本研究では、「保育プロセスの質」評価スケールを参考にしながら、保育者が、「子ども同士の会話を支えること」、「子どもが他者の言葉を聞くように支えること」などの視点から、保育現場での保育者の子どもへの関わりを観察するとともに、仮想場面での調査を実施した。本研究の結果から、保育者対象の研修を実施することによって、保育者の子どもへのコミュニケーション・スキルを向上させることが示唆された。これらのことから、保育者対象の研修プログラムの効果を明らかにした点が、本研究の社会的意義であると言える。

研究成果の概要(英文)：Observation of actual childcare situations and a survey of caregivers' interactions with children in hypothetical situations were conducted at childcare facilities. In addition, training on communication skills was provided to the group with training. The results of the observation of actual childcare situations showed that the scores for the quality of childcare increased in the group with training in the post-survey of the childcare provider training. This suggested the effectiveness of the training on communication skills. In the task of relating to hypothetical situations, there was a tendency for the number of types of involvement to increase as the years of experience in childcare increased. This suggests that longer experience increases the variety of ways to interact with children.

研究分野：保育学

キーワード：保育者研修 保育 コミュニケーション・スキル 保育の質

1. 研究開始当初の背景

子どもの学業その他において言語力が大事であり、その要が語彙力である(内田,2011)。その語彙力の発達において幼児期および小学校の時期にすでに格差が生まれている(Sylva et al.,2010)。そこで幼児教育において子どもの語彙力を増やし格差を是正する試みが必要であると考えられる。幼児教育において語彙力を増すであろう幼児教育の環境要因を調べ、特に家庭環境において語彙力が低めの幼児の語彙力を上げる方策が必要である。その学術的背景には「幼児教育の質」と「語彙発達の要因」と「語彙力を増すための介入方法」の3つの領域が関連する。

(1)幼児教育の質についての研究

欧米においては、幼児教育の質について今まで多くの研究がなされてきた。アメリカでは、教師の特徴や教育レベル、保育室の子どもの人数、カリキュラム、相互作用の質などの生態的な特徴が子どもの学力や認知スキルに影響を及ぼすことを示唆した研究(Mashburn,A.J, &Pianta,R.C.,2010)がある。また、イギリスでは、小学校就学前の幼児教育経験が小学校入学後の子どもの発達全般を高め、幼児教育を受けた期間が長い方が文字能力や算数能力の向上に効果があったとする研究や北アイルランドの子どもを3歳から11歳まで追跡調査し、就学前教育の質の効果が11歳時点での国語(英語)と数学の成績に影響していることを明らかにした研究などがある。しかしながら、日本においては幼児教育の質を検討した研究は少ない。

(2)幼児の語彙発達に及ぼすさまざまな要因についての研究

子どもの語彙力に及ぼす幼児教育環境の影響を調べた研究では、白川や原らの一連の研究(2014a,2014b,2014c)において、家庭の文字環境と小学校1年生のリテラシーとの正の関連があることを明らかにしたものの、園の文字環境と小学校1年生のリテラシーとの関連は弱かった。このことから、次の2つが考えられる。家庭での教育格差が子どもの成績に反映するものの、幼稚園や保育所はその教育格差の是正に成功していないか、または、子どもの語彙力に影響する要因となる保育の要因がこれまでの研究で測定されていない保育者の要因、とりわけその子どもに対する保育者の発話のあり方なのではないか、ということである。保育者の影響については、Siraj-Blatchford(2010)が、保育者と子どもの相互作用場面を観察し、子どもの思考に焦点を当てた保育者の関わりが子どもの語彙力を含む認知的発達に影響することを示唆している。また、内田ら(2009)の研究では、幼稚園や保育所の保育者に対して、文字環境観、保育形態、保育環境、子どもへの関わり方をアンケート調査し、幼児の語彙力との関連を見たところ、保育形態が(一斉保育か自由保育か)によって語彙力に有意差が見られ、自由保育の場合に語彙力が高いという結果を得ている。さらに、内田(2010)は、親のしつけが強制しつけ型よりも共有型しつけスタイルの場合の方が子どもの語彙力が高いことを明らかにした。しかしながら、この研究は、保育形態や親のしつけスタイルと幼児の語彙力との相関を調べたものである。以上から、日本の研究では、実際の保育者自身の幼児とのコミュニケーション・スタイルと幼児の語彙力との関係を調べた研究はまだ行われていない。

(3)研修を通して子どもの語彙力を増すための保育者の保育スキル向上のための介入研究

わが国における保育者の専門性の向上については、「子ども・子育て新制度」の施行により、保育者に対して研修会参加の機会をさらに与えていく方向に進んでいくことが期待されるが、従来型の研修の数が増えているだけで、そこに実技系と講義系の研修が統合されていないという問題点がある。2つめの問題点として、研修の有効性がまだ明らかではない。子どもの認知的発達を促進するという研究結果(Siraj-Blatchford,I.,2010)から、幼児教育の質を高めることに有効な保育者の言語的コミュニケーションスキルの向上を目指した保育者研修プログラムの開発が必要である。それは、理論ベースを明確にし、スキルとしての習得を可能にし、それらの効果を実証的に検証する。これらのことから、保育者自身のコミュニケーション・スタイルについてフィードバックを受けることができるワークショップ型の研修が、幼児の語彙力を向上させるための保育者のコミュニケーションの質の向上に寄与するのではないかと予想される。しかしながら、日本ではこのようなワークショップ型の保育者研修はまだ実施されていない。

2. 研究の目的

本研究の第1の目的は、幼児の語彙力の発達に及ぼす保育者と子どもの相互作用の質、特に保育者の言語的コミュニケーション・スタイルの個人差を検証することである。欧米の研究では、幼児の語彙力を伸ばすためには、保育者の語彙の異なり数が多いこと、子どもとのやり取りが一方的ではなく応答的で拡張的であること、共感的・思考的であることなどが重要な要因として挙げられている。本研究では、それらの要因の高低の組み合わせでスタイルを記述できることを実証する。第2の目的は、そこから抽出された保育者のより良いコミュニケーション・スタイルを実際の保育現場において使えるように、保育者を対象とした言語的コミュニケーションのワークショップ形式の研修を実施し、その事前・事後での保育者のコミュニケーション・スキルの変

化を調べることにより、保育者研修の効果について検証し、保育者研修プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

	事前調査(pre-test) 2017年9月4日～20日	保育者研修 2018年1月5日/20日	事後調査(post-test) 2018年2月13日～28日
研修参加群 38名	①保育場面の観察評価 (STTEW) ②仮想場面のかかわり課題 (タブレット調査)	【研修内容】 1. 事前調査の解説 2. グループワーク 3. グループの発表 4. アンケート	①保育場面の観察評価 (STTEW) ②仮想場面のかかわり課題 (タブレット調査)
研修不参加群 37名	①保育場面の観察評価 (STTEW) ②仮想場面のかかわり課題 (タブレット調査)	なし	①保育場面の観察評価 (STTEW) ②仮想場面のかかわり課題 (タブレット調査)

保育園の保育者 75 名を対象として、「保育プロセスの質」評価スケール(STTEW)の中の「サブカテゴリー3:言葉・コミュニケーションを支え、広げる」に含まれる「項目5:子ども同士の会話を支えること」、「項目6:保育者が子どもの声を聴くこと、子どもが他者の言葉を聴くように支えること」、「項目7:子どもの言葉の使用を保育者が支えること」、「項目8:迅速で適切な応答を用いて」を用いて、保育場面における観察評価を実施した。

4. 研究成果

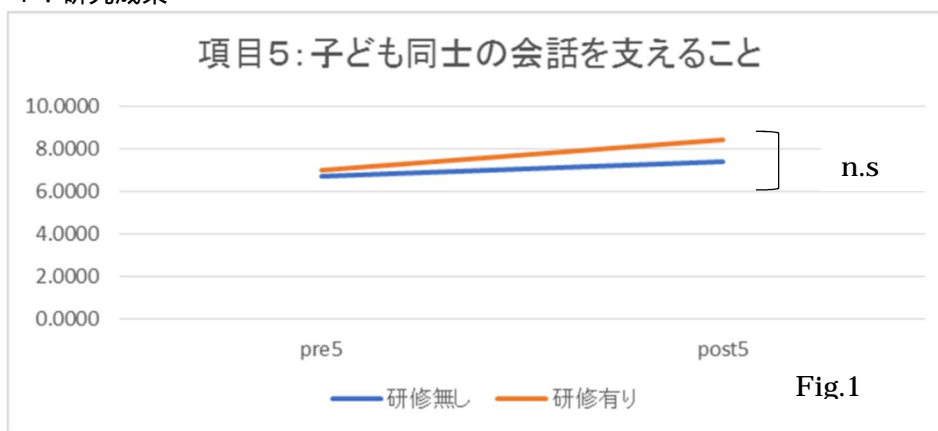


Fig.1 に示したように、「項目5:子ども同士の会話を支えること」において、研修あり群と研修なし群と比較したところ、有意差は見られなかった。項目5には、「子どもたちが、いつでも好きなときに話すことができる。」、「子ども一人ひとりが話したいと思った時に話せる機会を保障している。そのために保育者が子ども一人ひとりと、あるいは小グループとかかわっている。」、「子どもたちが他者とのかかわりや会話、遊び等へ参加し、自ら主導しやすいようにしている。」などの項目が含まれる。

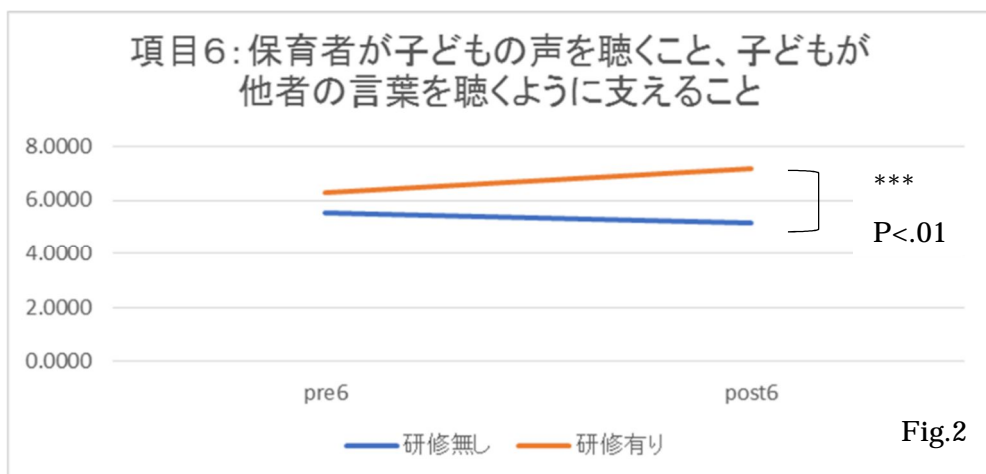
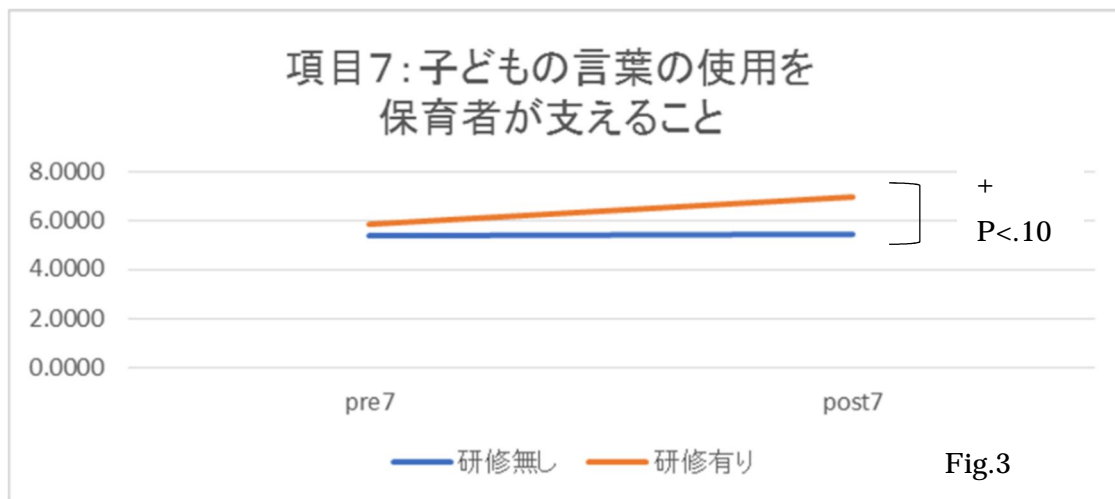


Fig.2 に示したように、「項目6:保育者が子どもの声を聴くこと、子どもが他者の言葉を聴く

ように支えること」において、研修あり群が研修なし群よりも有意に評価が高かった。このことから、保育者研修によって保育者のコミュニケーション・スキルが向上したことが示唆された。項目6には、「子どもたちの言語的、非言語的サインに回答している。」「子どもたちと会話をする時に、子どもたちと目の高さを合わせている。」「子どもたちがじっくり考えて回答できるよう、長い沈黙を受け入れている。一人ひとりに必要な沈黙の長さが異なるということを確認、子どもたちにも示している。」などの項目が含まれる。

Fig.3 に示したように、「項目7：子どもの言葉の使用を保育者が支えること」にお



いて、研修あり群が研修なし群よりも評価が高い傾向がみられた。項目7には、「子どもたちの年齢や能力に応じて、適切な言葉を用いている。」「子どもたちが遊んでいる時に、遊びの様子を適宜言葉で表現することで、語彙の手本を示したり、子どもたち自身の思考のプロセスをわかりやすく提示したりしている。」「子ども一人ひとりの現状より少し上のレベルで足場かけをし、言葉の手本を示している。」などの項目が含まれる。

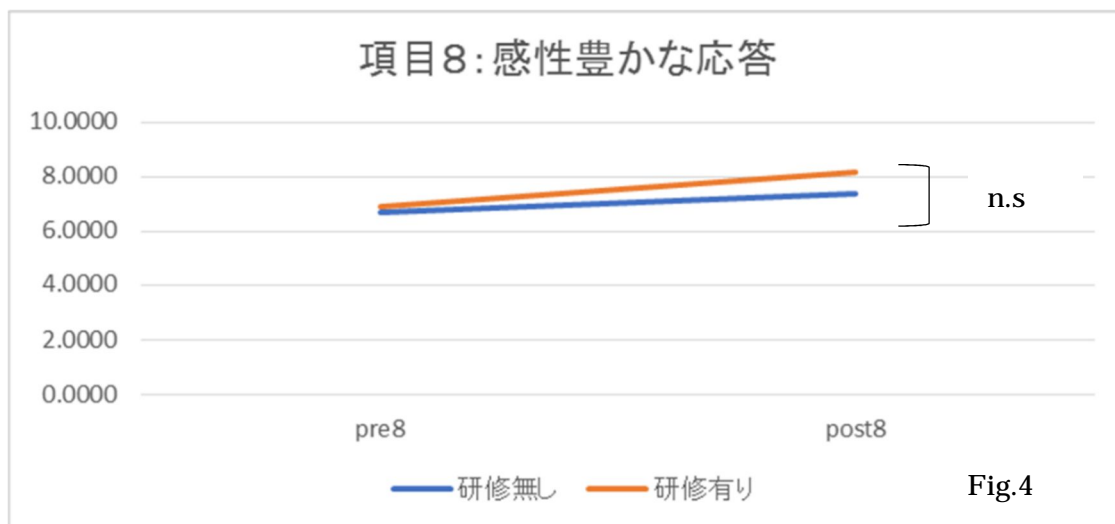


Fig.4 に示したように、「項目8：感性豊かな応答」において、研修あり群と研修なし群で比較したところ、有意差は見られなかった。項目8には、「保育者が興味深そうに、子どもたちの言葉に耳を傾け、子どもたちからの質問やコメントに回答している。」「子ども一人ひとりに対して、適切な時に、すぐにほめ言葉や励ましの言葉をかけている。」「保育者がある特定の子どもに焦点を当てたいと思った場合でも、他の子どもたちが排除されたと感じないようにしている。」などの項目が含まれる。

実際の保育場面の観察では、保育者研修の事前と事後調査で保育の質評価の点数が上昇した。これらのことから、保育者研修の効果があると考えられる。また、仮想場面のかかわり課題では、保育経験年数が長くなると、かかわりの種類が多くなる傾向が見られた。このことから、経験年数が長くなると子どもへのかかわり方のバリエーションが増えることが示唆された。今後の課題としては、保育者研修の回数を増やすことで保育者のコミュニケーション・スキルの向上が見られるのかを検討することである。

5 . 引用文献

原孝成・白川佳子・無藤隆・金沢緑・奥村智人 (2014a) 小学校1年生のリテラシーに及ぼす家庭の文字環境の影響(1)-幼児期の文字環境の検討- 日本教育心理学会第56回総会発表論文集 342.

Mashburn, A.J., & Pianta, R.C. (2010) Opportunity in Early Education: Improving Teacher-Child Interactions and Child Outcomes. Edited by Reynolds, A.J., Rolnick, A.J., Englund, M. M., & Temple, J. A. Childhood Programs and Practices in the First Decade of Life. Cambridge University Press: NY 243-266.

Siraj-Blatchford (2010) A focus on pedagogy: Case studies of effective practice. Edited By Sylva,K., Melhuish,E., Sammons, P., Siraj-Blatchford, I., & Taggart, B. Early Childhood Matters: Evidence from the Effective Pre-school and Primary Education project. Routledge:London and NY,

白川佳子・原孝成・無藤隆・金沢緑・奥村智人 (2014b) 小学校1年生のリテラシーに及ぼす家庭の文字環境の影響(2)-児童期の文字環境の検討- 日本教育心理学会第56回総会発表論文集 343.

Shirakawa,Y., Hara,T., Muto,T., & Kanazawa,M. (2014c) Study on Preschool Children's Learning to Read at Home. EECERA 24th Conference Greece (Poster)

Sylva K. & the EPPE team (2010) Introduction: Why EPPE? Edited By Sylva,K., Melhuish,E., Sammons, P., Siraj-Blatchford, I., & Taggart, B. Early Childhood Matters: Evidence from the Effective Pre-school and Primary Education project. Routledge:London and NY, 1-8.

内田伸子・浜野隆(2010) しつけスタイルは学力基盤力の形成に影響するか 共有型しつけは子どもの語彙獲得や学ぶ意欲を育てる鍵 2011 年度国際格差班プロジェクト報告、27-11.

内田伸子(2011) 学力格差は幼児期から始まるか? ~保育と子育ては子どもの貧困を超える鍵になる~ 江戸川大学こどもコミュニケーション研究紀要 Vol. 1, 1-8.

内田伸子・浜野 隆・後藤恵子(2009).『幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的要因の影響 日韓中越蒙比較研究, 2008 年度調査の結果 』グローバル COE 国際格差班報告書

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 山口春花・白川佳子	4. 巻 第30号
2. 論文標題 仮想場面における母親と保育者の子どもへの関わり方：不安定な3歳未満の子どもに対して行う身体接触の特徴に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 乳幼児教育学研究	6. 最初と最後の頁 27-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 境 愛一郎、栗原 啓祥	4. 巻 28
2. 論文標題 コロナ禍による登園自粛を巡る保育者の経験と意識および価値観の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際幼児教育研究	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34567/iaece.28.0_019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 境愛一郎・栗原啓祥	4. 巻 第58巻, 第1号
2. 論文標題 職場環境の変化や実践を通じた給食職員の意識変容：「子ども志向」を持つA氏の場合	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 93-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 境愛一郎	4. 巻 第29巻
2. 論文標題 保育環境としての通園バスの特質と機能：車内での活動内容と運行時刻表との関連性に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 乳幼児教育学研究	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤島千春・白川佳子	4. 巻 66
2. 論文標題 保育者と保護者における発達障害児への特別支援に対する認識についての研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共立女子大学家政学部紀要	6. 最初と最後の頁 141-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 境愛一郎	4. 巻 66
2. 論文標題 「参加・協同型園内研修」の導入に対する若手保育者の意識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共立女子大学家政学部紀要	6. 最初と最後の頁 99-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 境愛一郎	4. 巻 19
2. 論文標題 自然環境を活用した保育への転換に伴う保育者の意識変容と葛藤：固定遊具から森へ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城学院女子大学発達科学研究	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Yoshiko Shirakawa, Aiichiro Sakai and Takaaki Hara
2. 発表標題 Developmental Research of ECEC Teacher's Job Training to Improve Their Communication Skills: Through comparing between students in pre-service teacher education and ECEC teachers.
3. 学会等名 EECERA (ヨーロッパ幼児教育学会) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口春花・白川佳子
2. 発表標題 「母親 - 子ども間」と「保育者 - 子ども間」の身体接触についての研究 - 2歳児クラスの母親と保育者が同一児に行う身体接触を手がかりに -
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会ポスター発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柳瀬洋美・白川佳子・小原敏郎・吉永早苗
2. 発表標題 コロナ禍における大学発「地域子育て支援」の果たす役割 2020年度「子育てひろば」活動の実践から
3. 学会等名 日本保育学会第74回大会ポスター発表
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口春花・白川佳子
2. 発表標題 「母親 - 子ども間」と「保育者 - 子ども間」の身体接触についての研究
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白川佳子
2. 発表標題 コロナ禍での保育者養成四年制大学における初年次教育の授業実践報告 オンライン授業での「基礎ゼミナール」「教育心理学」
3. 学会等名 日本乳幼児教育・保育者養成学会第1回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 境愛一郎
2. 発表標題 人的環境としての通園バス運転手の役割と専門性
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 境愛一郎・山田徹志
2. 発表標題 キッズタクシー事業の成り立ちとドライバーの専門性から見る保育の現状
3. 学会等名 国際幼児教育学会第41回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 境愛一郎・栗原啓祥
2. 発表標題 コロナ禍をきっかけに保育現場に発生した「ディスタンス」
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第30回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白川佳子、原孝成、無藤隆
2. 発表標題 Developmental research of ECEC teacher's job training to improve their communication skills: Through analysing the content of teacher's job training.
3. 学会等名 The 29th EECERA Conference (Individual Presentation) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiko Shirakawa, Takaaki Hara and Takashi Muto
2. 発表標題 Developmental Research of ECEC Teacher 's Job Training to Improve Their Communication Skills.
3. 学会等名 The 28th EECERA Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丹羽さかの・野口隆子・掘越紀香・松寄洋子・吉永安里・今井康晴・福田洋子・白川佳子・佐久間路子
2. 発表標題 育ちと学びをつなぐ幼小接続(2) - 幼小接続に関するキーワードの既知と研修の参加回数に関する調査
3. 学会等名 保育教諭養成課程研究会・研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松寄洋子、石沢順子、無藤隆
2. 発表標題 幼児初期の子どもの保育内容による身体活動量の違い
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiko Shirakawa, Rie Ito
2. 発表標題 The change in adolescent gender consciousness: A two-year longitudinal study of first year students in preschool teacher training courses.
3. 学会等名 The 27th EECERA Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上こころ、白川佳子
2. 発表標題 特別な支援を要する幼児への保育者の望ましい援助についての検討(その3)
3. 学会等名 日本保育学会第70回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 白川佳子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 全国社会福祉協議会編	5. 総ページ数 255
3. 書名 『子どもの発達理解と援助』「第9章 子育て家庭に関する現状と課題」	

1. 著者名 中坪史典・香曾我部琢・上田敏丈・境愛一郎他7名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 特定非営利活動法人 ratik	5. 総ページ数 440
3. 書名 複線径路・等至性アプローチ(TEA)が拓く保育実践のリアリティ	

1. 著者名 無藤隆、白川佳子、原孝成 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ぎょうせい	5. 総ページ数 246
3. 書名 育てたい子どもの姿とこれからの保育	

1. 著者名 無藤隆、白川佳子 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ひかりのくに	5. 総ページ数 128
3. 書名 10の姿プラス5・実践解説書	

1. 著者名 白川佳子、福丸由佳 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 191
3. 書名 子ども家庭支援の心理学	

1. 著者名 無藤隆、大豆生田啓友、松永静子 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 エイデル研究所	5. 総ページ数 319
3. 書名 教育・保育の現在・過去・未来を結ぶ論点 汐見稔幸とその周辺	

1. 著者名 無藤隆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ひかりのくに	5. 総ページ数 63
3. 書名 3法令おたすけガイド	

1. 著者名 無藤隆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 164
3. 書名 幼児期の終わりまでに育ってほしい110の姿	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	無藤 隆 (Muto Takashi) (40111562)	白梅学園大学・子ども学研究科・教授(移行) (32808)	
研究分担者	境 愛一郎 (Sakai Aiichiro) (70781326)	共立女子大学・家政学部・准教授 (32608)	
研究分担者	原 孝成 (Hara Takaaki) (10290636)	目白大学・人間学部・教授 (32414)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 EECERA(オンライン)	開催年 2021年~2021年
-------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------